2014国際協同組合サミットに参加して

理事研究員　髙島　浩

昨年10月にケベックにおいて、２年ぶりの国際協同組合サミットが開催された。国際協同組合年に開催された第一回サミットが、国際協同組合同盟（以下「ICA」）が推進する協同組合ブループリントの作成や協同組合運動の推進に大きく貢献したことから、前回と同様に、カナダの協同組合運動発祥の地であるケベック州で開催することとなったものである。

このサミットには、カナダ国内のみならず、全世界から協同組合関係者が多く参加したので、その内容を紹介したい。

１　国際協同組合サミットのテーマ

今回は、協同組合運動、経済・食糧等の諸課題について、「協同組合がいかに革新的な力を発揮できるか」をテーマとし、93か国３千人以上が参加し、４日間にわたりパネルディスカッションや研究発表が行われた。参加者は協同組合関係者のほか、国連ほかの国際機関の関係者、研究者が多数参加。日本からは、全中（中家副会長）、日生協（浅田会長）ほかがパネリストとして参加した。また、農林中金の奥専務も、戦略的マーケットマネジメントに関するフォーラムにおいて、「JAバンクの使命と抱負」について講演。JAバンクが取り組んでいる農業者の所得向上、CS改善プログラム、現場営業力強化等についてプレゼンテーションを行った。

サミットで講演する農林中金奥専務

２　経済学者から見た協同組合が果たす役割

サミットにおいて、著名な経済学者が協同組合運動について基調講演を行っている。

サミット初日の基調講演で、ノーベル経済学賞を受賞したエール大学シラー名誉教授は、「“良い社会”を実現するためにビジネス・金融はどうすべきか」という講演を行った。シラー名誉教授は、現在のビジネス・金融界は短期収益を追求する傾向が強く、社会のニーズに応え“良い社会”を構築するという目的から逸脱してしまっている。歴史的に、協同組合は、株式会社のみでは実現できない“良い社会”の実現のための重要なイノベーション（新しい組織の実現）のひとつの事例であったと講演した。そのうえで、協同組合においても、新しい通信技術の利用などのイノベーションの活用が必要であると強調した。

また、環境問題や貧困問題の専門家で、国連のアドバイザーでもあるコロンビア大学ジェフリー・サックス教授は、「持続可能な成長のための新しい枠組み」と題する講演のなかで、協同組合運動は現在世界が直面する課題解決に大きな役割を果たす必要があると講演。

アフリカ等貧困問題解決において協同組合の役割が重要であることや、先進国においても、環境関連の分野で協同組合がイニシアティブをとっている事例を強調した。

両教授の講演は、株式会社を中心としたビジネスモデルには弊害もあることから、協同組合が果たすべき役割は大きいというものであり、会場からは賛同の声が上がっていた。

3　協同組合に関する研究発表

今回のサミットの期間中、各パネリストによる協同組合の取組みに関する報告、意見交換のほか、世界各国の研究機関から26の研究が発表されている。

そのなかには、協同組合が全世界で２億５千万人の雇用を生み出し、G20の雇用総数の12％が協同組合に関連する事業等に従事しているとするレポートや、協同組合が全世界で３兆ドルの年間収入を生み出していると言った発表もある。こうしたレポートは、従来、協同組合運動においては、あまり明確に確認できていなかった雇用や世界経済への影響を実証データにより説明するものであり、国際労働機関(ILO)からは、協同組合の発展を支援するサポート材料となる重要なデータであると、歓迎の発言も寄せられた。

一方で、協同組合が株式会社モデルと競合していくうえでの資本調達や組合員の高齢化等の問題、協同組合に関する社会の認知度向上の必要性などの共通課題が議論された。

それぞれの基調講演、研究発表を踏まえて、各国協同組合の代表者によるパネルディスカッションも行われている。ディスカッションは、国・業種も異なる協同組合の代表者によるものであるが、協同組合の共通の理念のもと、真摯な意見交換がなされたことが印象的であった。

4　サミット宣言

４日間の議論や研究発表を総括する形で、大会宣言がまとめられている。宣言において、今回のサミットは、協同組合が世界経済の安定に貢献するとともに、地域経済における重要な役割を果たしていることを確認したとしたうえで、今後、経済・社会発展、食糧安全、雇用、健康などの分野での23の取組事項を取りまとめている(注)。

5　おわりに

2014国際協同組合サミットは、全世界の協同組合関係者のみならず、政府関係や有力な研究者の参加のもと成功裏に終了している。

サミット閉会の主催者挨拶で、カナダの協同組合銀行デジャルダングループのモニック・ルノー最高責任者は、今回のサミットにおいて、協同組合は世界が抱える問題についての解決策を提供できることを証明したと締めくくった。ICAのポーリン・グリーン会長も、信頼できる実証データは、世界の政策意思決定者に協同組合ビジネスモデルを正しく認識させるために重要なものであると発言し、サミットが有意義なものであったことを強調した。

こうした国際会議が、参加者の事例紹介や研究者の分析等を通じて、協同組合がいかに社会に貢献しているかをアピールするための重要なものであることを改めて実感した。

（たかしま　ひろし）

(注)サミットのプログラム、サミット宣言は、下記ウェブサイトから閲覧可能。
http://www.intlsummit.coop/cms/en_CA/sites/somint/home.html